

いのちいっぱい 感動いっぱい ～ ありがとうの旅を続けよう！～

周囲の山々や空の青が、躍動感や力強さに満ちあふれています。“緑陽”とでもいうのでしょうか。みなぎる生命を感じる季節。子どもたちもまた同じように、来る5月をいのちいっぱい生き抜きます。

はい、できます！

22名の新入生を迎えてスタートした令和5年度。10日には入学式が行われましたが、4年ぶりにいろいろな制限をなくし、嬉しい式となりました。この入学式で、PTA会長である上田さんにも御祝辞をいただきましたが、その中で、上田さんが喜須来小のあいさつについて触れられました。すばらしいあいさつのおかげで、私たち大人がエネルギーをもらっていること、本当に気持ちのよいあいさつに感謝していることなどを述べられました。また、上田さんは、1年生とあいさつの勝負をされ、1年生がみごと勝利。大きい声であいさつすることの大切さを祝辞の中で教えてくださいました。

ところで、その祝辞の中で、こんなシーンがありました。

「明日の朝から、お兄ちゃん、お姉ちゃんたちと一緒に学校へ来ることになります。だから、お兄ちゃんお姉ちゃんたちに出会ったら、まず大きな声であいさつしましょう。お兄ちゃん、お姉ちゃんたちも、必ず大きな声であいさつをしてくれます。そうですね！児童会長、井関竜大くん！」

この会長さんの突然の振りに、体育館最後尾に座っていた井関くんは、どう反応したか。

「はい！そうです！」

体育館中に井関君の凛とした声が響き、式が一気に締められました。式後、井関君に尋ねました。

「竜大くん、すごくいい反応やったね。会長さんから、事前に何か言われてたの？」

「いえいえ、突然です。ぼくもびっくりしました！」

PTA会長さんと児童会長のあ・うんの呼吸にあっばれです。

感で動く

始業式前に行われた新任式で、少し気持ちが高ぶっていたAくんが、何度か椅子から腰を上げ立ち上がる動作がありました。真後ろには、6年生のKくんが座っていましたが、KくんはAくん言葉で何かを注意するわけではなく、そっと後ろからAくんの肩に手をさしのべました。優しい自然な手の動きでした。2～3回Aくんは立つ動作がありましたが、Kくんの優しい自然な手で、やがてその動きは止まりました。

スタート二日目は、分団会がありました。上級生が低学年生を教室まで迎えに来てくれ、各教室まで連れて行ってくれます。特に、1年生はどこに何があるのかまったく分かりません。その中に、ふと見ると、階段を上

がる1年生の背中に、6年生Bくんの優しい手がさしのべられていることに気がきました。だれに頼まれたわけでもなく、その自然な優しい手から、Bくんの「心」が読み取れました。

ある分団会では、1年生が前に出て自己紹介をしている分団に出会いました。1年生の側には6年生Cさんがいて、ひざまづいて1年生の目線になり、不安そうな1年生の腕を両手でそっと支えていました。自らの判断で、気づき感じて具体的に動く。まさに“感動”の姿です。



一人で勝負できる力

先週の木曜日は、保内ブロックのあいさつ活動の日でした。須川の三叉路、御神橋から国道に出た横断歩道地点の2か所で、地域の方、運転手さん、小中学生、高校生にあいさつ活動を繰り広げた児童会と中学生の代表のみんな。この日は、今年度初めての活動でしたが、国道を行き交う車に向かって大きな声であいさつを届ける姿に、さわやかな風を感じました。本当にごろうさまでした。

さて、須川の三叉路に立ってくれたのは、この日、和田先生と6年生のAさんと中学生。人数的には少なく、少し寂しい感じもしましたが、活動の内容はすばらしくしっかりとがんばってくれました。活動を終え、私は一足先に学校へ向けて歩きました。しばらくすると、はるか後ろの方から「おはようございます！」という大きな声が何度も聞こえてきます。振り返って見ると、Aさんがたった一人で、すれ違う車

の運転手さん一人一人に大きな声を掛けていたのです。驚きました。たった一人で…。5年生の頃、少し声が小さいかなと思ったこともありましたが、その心配はもう彼女には無用のようです。実は、Aさん、最近校長室前をなにげに通りが過ぎた後、バックしてきて、「校長先生、さようなら！」と言ってくれることがあります。その姿を見ていた用務員さんが、「わざわざバックしてきてあいさつなんて、かわいいですね。」と言われていました。一人でも、こんなに頑張ってくれる人がいるんだと思うと私は嬉しくってたまりません。Aさん、これからも元気なあいさつ一緒にがんばっていきましょう！

ぼくだったら、こうしてほしいもん

校長室の前には、今年度の喜須来小キャッチフレーズが、長々と掲示されています。入学式で、1年生に紹介するために作ったこのキャッチフレーズ横断幕ですが、せっかく作ったので、校長室前に掲示をしています。かなり横長い掲示物で、一人で取り付けるにはちょっと難しかったのですが…。取り付け始めると、やはり破れそうで、ん〜と悩みながらやっていたのですが、ふと横を見ると1年生のAくんが私の横に立って、横断幕を取り付けやすいように高く持ち上げてくれているのです。私はその行動に驚いて、「わー、ありがとう。嬉しいです。」と伝えました。すると、Aくんはこう言ったのです。

「だって、ぼくだったら、こうしてほしいもん。」



大空に舞え 喜須来小飛行隊！

何度も何度も執拗に呼び掛けさせていただいた二宮忠八翁飛行記念大会の参加者募集。保護者の皆様には、大変御迷惑をおかけいたしました。3人の参加者から一向に増えず、どうしようかと悩んでいましたが、最終的にはなんと21名の喜須来小飛行隊が結成されました。明日の大会では、一人一人の飛行機が、5月の大空へ舞い上がることを願っています。みんな、がんばろうな！

虹のおはなし

「校長先生、昨日ね、虹を見たの！」

「すごーい。よかったねえ。」

「あのね、すごいのよ。虹の周りには、太陽さんと雨さんが一緒にいたの。」

Kちゃん、すてきな話をありがとう。

高校生との出会い

先日、夜の会があり、車では帰れない日がありました。たまには運動を込めて歩いてみたいと思い、家族に途中まで迎えに来てもらうことをお願いして、駅から徒歩で家路につきました。列車から降りた私に、構内を出てすぐ、「わっきー！」という声が聞こえてきました。ちょうど到着したばかりの三崎高校のスクールバスの中からでした。暗くてよく見えなかったのですが、降りてくる女子高校生たち二人を見て、すぐに愛中の卒業生だと分かりました。彼女たちは、3年前、1年間だけ共に過ごしました。今年から三崎高校へ通うことになり、ちょうどバスが駅に着いたところだったのです。中学生の頃は、いろいろなことで悩んだり苦しんだりといういろいろあった二人ですが、あれから2年。すっかり大人びて、高校生らしくなっていました。途中まで一緒に話をしながら歩いたのですが、たくさんのお話を素直にしてくれた二人の成長を見て嬉しく思いました。声を掛けてくれてありがとう。

さわやかな二人と別れて、その後、名坂の長い道を歩きました。街灯が少なく暗い場所が多いのですが、ひたすら歩きました。やがてトンネルを越え下り坂へ。山手の本当に暗いエリアに来た頃、後ろから部活帰りの高校生の自転車集団が近づいてきました。近づいているという感覚はあったのですが、そのスピードがどんどん上がっているように感じたその瞬間、私の真後ろで急ブレーキをかけタイヤがスリップするザーッという音が響きました。やばい！私は、体を萎縮させて衝突を防ぐ動きをしました。真後ろの様子は全く分かりません。先頭の自転車は、私との接触を何とか避け、言葉なく真横をぎりぎりに通り抜けていきました。部活帰りの疲れの中で、高校生たちも私のことが見えなかったのだと思います。先頭で衝突を避けた生徒は、そのまま行ってしまいました。最後尾の生徒は速度を落とし、私にこう言ったのです。

「すみませんでした。」

ちょっと疲れていたのですが、歩いてよかったと思ったのです。